

英語を楽しく



☆外国語って現地で育たないと身につかない部分も、

1. つぎの a) と b) の文はほんのちょっとしたことで意味が違いますが、英語を外国語とする私にはなぜわかりません。

a) He climbed the mountain.

(彼はその山の頂上まで登った。)

b) He climbed on the mountain.

(彼はその山に登った。-山のどこまで登ったのかわかりません)

a と b のちがいのわけは「on」の有る無しにあるわけですが、なぜ意味の違いがそれで出るのかわかりません。本には、

「a) は climb の力が the mountain に全面的に及び、「頂上まで登る」ことを意味し、b) のように climb と the mountain. の間に前置詞が入ると動詞 climb の力が目的語の the mountain. に全面的には及ばず「頂上まで登った」という意味にはならないのです。」

と書いてありました。

「on」のある方が「山の上=頂上」

という気がするのですが・・・



ことばっておもしろいなあ。

on についても歴史があるのだね

2. 「I」を強調したかったのですが・・・

I am going to buy a violin. (私はバイオリンを買うつもりです。) きっと!

の文を It is (ここに強調したいものを入れる) that・・・の強調構文を使って「バイオリンを買うつもりなのは私です。」

と、私を強調した文を作りたいとある人が思いました。そこで、

It is I that am going to buy a violin.

として間違いなし、と思ったのですが、実際は✖。正しくは、

It is me that am going to buy a violin.

です。() の中は 「I」でなく「me」なのです。なぜ?それはこんなわけです。

英文法の本の中には
I とかいている本もある
がも知れません。



It is me that am going to buy a violin. (形式ばらない英語)

It is I that am going to buy a violin (形式ばった英語)

というわけです。外国語を学ぶにあたって上のようなことに出会うのも英語を学ぶ楽しみと思ってはどうでしょうか。そうそう、ひよっとしたら私たちは知らず知らずにならぬ間に英語を話しているかもしれませんね。それも愛嬌と思います。